

学生の主体的な活動と学修成果の獲得を意図した教室外プログラムの要件

本事業では、学生の主体的な活動と大学等の教育目標の達成に向けた教室外プログラムの要件を示す。

学習目標と目標達成に向けた学習活動、それら取組の成果を測定する評価方法が、三位一体となって明確に設定されている必要がある。プログラムには、教員が関与する多様な経験や体験をとおした学術的な学びと現実世界を往還させる仕組みがあり、ルーブリック等の客観的な評価規準を活用し、教員と学生との質の高いインタラクションによって展開されるものである。

学生の主体的な学びを引き出すには次の要件が必要である。

《学習目標》

1. 学習目標として、大学や学部学科の教育目標に合致した、汎用的あるいは専門的な知識および技能等の修得を設定していること。

《学習活動》

2. 学習目標が達成できる活動であること。
3. 学生の意欲がかき立てられ、取り組みがいのある活動であること。
4. 学生が自ら活動に参画できるよう設計されており、また、教員が関与して仕向けていること。

(学生任せになっていないこと)

5. 多様な経験や体験をとおして学術的な学びと現実世界を往還させる仕組みがあること。
6. 学習目標の達成を認識するために、ふりかえりの機会が活動の途中および活動後に設定されていること。

(機会例：日々の活動記録や活動日誌といった個人の振り返りだけでなく、グループやクラスでの発表・意見交換による共有も含めることが望ましい)

7. 学生同士やステークホルダー（学外活動の受け入れ先である団体や組織の担当者や関係者等）とのコミュニケーションの機会が設定されていること。

(設定された学習目標によっては、学生同士やステークホルダーと議論する機会の設定が必要)

《評価活動》

8. ステークホルダーからの評価が組み込まれていること。
9. 形成的評価が取り入れられ、教員による迅速で効果的なフィードバックがあること。

(フィードバック例：全体への説明、グループへの説明、個々の学生への説明)

10. 総括的評価に用いる成果物には、多様な表現方法が取り入れられていること。

(成果物の例：ビデオ、プレゼンテーション、ニュースレター、レポート等)